


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2024 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	杉山 ひなた	会員番号	0037707	
申請者の所属・職名	慶應義塾大学大学院薬学研究科 生化学講座 博士課程 1 年			
出席会議名	21st International Congress of Mucosal Immunology			
発表論文タイトル	Intestinal Microbiota-dependent Activation of Retinoid X Receptor Dictates the Differentiation of CX ₃ CR1 ^{hi} Macrophages			

実施結果:

この度は、2024 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に選出いただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考委員会の先生方ならびに推薦して下さいました長谷耕二教授、そして事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

本 Travel Award のご支援のもと、2024 年 7 月 6 日から 5 日間、デンマークのコペンハーゲンで開催された The International Congress of Mucosal Immunology (ICMI) 2024 に参加させて頂きました。この学会には、肺から膀胱に至るまで幅広い粘膜組織の免疫に関する研究者が集まり、150 件の口頭発表と 400 件のポスター発表が行われました。私は、腸管常在性マクロファージの分化機構の解明を研究するとともに、幼少期の免疫記憶にも関心があり、留学先を探しております。そのため、Mucosal macrophage に加えて Early life immune imprinting のセッションが行われる本学会に参加し、最新の知見を得て研究に活かすだけでなく、留学先の検討もできればと考えていました。

学会では、Mucosal macrophage セッションにて「Intestinal Microbiota-dependent Activation of Retinoid X Receptor Dictates the Differentiation of CX₃CR1^{hi} Macrophages」というタイトルで口頭発表をしました。初めての海外での発表に緊張し、スムーズな研究発表や質問に対して的確な返答をすることができず、自分の実力不足を痛感しました。しかしながら、他の研究発表から発表構成や研究成果の効果的な見せ方について多くを学ぶことができました。今後、自分の課題を克服しつつ、今回得られた新たな視点を取り入れ、より優れた研究発表を目指していきたいと考えています。また、Early life immune imprinting のセッションにて、興味を抱く研究室を見つけることができました。残念ながら、タイミングが合わず教授と直接お話することはできませんでしたが、今後連絡を取り合い、留学を交渉しようと考えています。

さらに、学会前に開催された Principles of Mucosal Immunology Course にも参加し、各粘膜組織の免疫細胞の特徴を広く理解することができました。また、後半のセッションではキャリア形成に向けて今できることを学ぶ貴重な機会となりました。本学会で印象的だったのは、女性の研究者が多かったことです。海外では日本に比べて男女比が均等であると聞いておりましたが、今回はむしろ女性の方が多い印象を受けました。何人か理想とする女性研究者を見つけたため、彼女達のようなキャリアを歩めるよう、日々の研究に精進していきたいと強く感じました。

末筆とはなりますが、このような貴重な体験をさせて頂き、誠にありがとうございました。この経験を活かし、今後も粘膜免疫系の発展に貢献できるよう精進して参ります。